

Title	姚梅伯选”红楼梦”詞語汇释
Author(s)	緒方, 一男
Citation	大阪外国語大学学報. 17 p.99-p.111
Issue Date	1967-03-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/80279">https://hdl.handle.net/11094/80279</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 姚梅伯选 “红楼梦” 詞語汇释

緒 方 一 男

### 前 言

学习外国語学的人，随着学力的提高自然而然的踏入研究小說的阶段。尤其是研究中国語学的人們，多少有读“通俗小說”的必要。但是連中国人們也难以十分了解的詞語，我們外国人怎能确实地把握呢？这就是我們所以希冀出現一部專門小說詞典的理由。几年来我時常地提倡“一部通俗小說应有一部專門的注解书”以备读者隨時检查。但是至今还没有一本能滿足我們希望的專門注解小說的書籍出版。

在六七年以前冬天，京都郊外的一个庙宇里，我光荣地有机会陪着恩師金子、倉石两位先生去艺素菜。席上偶然談到“红楼梦”遂受了两位先生的慫恿，接受了清末“姚梅伯”先生遺著的《红楼梦類索》中的“方言諸諺”的注明工作。因為姚先生是鎮海（浙江）人，因此他所說的方言就能算入北方話，至少也可能說，當時在下江一帶很不容易听到的言語。这是引人非常入胜的地方。我先把这个工作分為五段。

第一段：詞句的檢出。

第二段：注明檢出的詞句。

第三段：例文的日译。

第四段：編排索引。

第五段：釐清。

于是我馬上开始第一段的检索語汇工作。先着手的是把所有的句子按着拼音排列整齐，再要填写該句的出处章回。但是一开始我就碰了一个大釘子。因為姚先生所选择的語汇是挨着字数排列的，从俩字到五十个字，並且互相毫无連系，当然也没有章回的注明。一时我对两千多的語句，很难措施，可以說是束手无策而已。不过这段工作随着时间的经过，也就一个个都显露本来真相，三年以后差不多都确定了出处。但是由于原本的異同或付印时的疎漏等原因，未免有十句左右的竟不能查出。我很盼望專家和一般读者們，如果将来发見时多多指教纠正。

第二段是付注工作。按理，这應該是我来負責注解的，不过我一个日本人学识有限又怕有牽强发生錯誤的地方，因此决心一切注解都要尽量地查《汉語詞典》“中国大辞典編纂处”，《小說詞語汇释》“陸澹安”，和《红楼梦》“作家出版社”的注解来注明。查不出来的或比較难以理解的，

用我自己的解释来注解。

第三段是日译例文。本词典为了广泛的读者们的方便，採用了作家出版社发刊的红楼梦做为底子，因为它是现在日本最容易买到的一本。所收的例子，每一句都有说话人的“性别、阶级、老少、教养、籍贯等，以备类别时有所贡献，因此尽量记载以供参考。日文的翻译工作也是相当费脑筋的一个问题。有的真不容易译成日文，有的根本日文没有合适的表现。幸亏受了恩师金毓本先生的恳切指导能够得到大错变成小错，我谨藉此表示感谢。

这样前后费了八年的日子，用了五千张的稿纸才完了不能十分满意的大概工作。但是目前的情况前途困难还很多，这些稿子一时也不能整个出版，只好把开头的仅仅十多个词能够付印发表的，请读者们指教和批评。回忆我的这次工作祇能算是研究“红楼梦”注解学的九牛一毛，但是也可以自豪地说，或者能对后来的研究通俗小说的人们有一些裨益，希望不久的将来能实现“一部小说就有一部注解书”的新时代。

1966, 10, 1

### 《紅樓夢類索》原序

雪芹曹氏，以涵古蓋今之學，撰空前絕後之書，麗麗洋洋，為卷者百有二十。上自公卿，下及屠販，罔不讀之而嘖嘖然稱道之。然心解者少，耳食者多，大抵經緒紛繁，得此遺彼，信非澄心默識，有不能弁其途者。園居之暇，分類蒐輯之，為讀者作南針之指，而以鄙見所獲者附之。至章晰條分，余別有著，茲不復囑云。心無所用，較已猶賢，姑分為二冊存稿。暇日校補完成，再行分卷可耳。

咸豐十年庚申秋七月復翁手抄

### 《紅樓夢類索》魏序

是書原名讀紅樓夢綱領，分上下兩卷，鎮海姚梅伯先生遺著也。先生以駢文名家，能書畫，好讀紅樓夢說部，今坊間有大某山人手批紅樓夢本，即出先生手筆。是書總括全書，因類指事，綱目井然，雖余事，非能手不辦也。前年春，余理故籍，得是書，識為先生手稿，乃為校寫一過，謀付剞劂。會故友同里洪通叔君主筆遠東日報，見而好之，因索副本排日刊登報端，未終卷而報紙中輟，復一年，洪君亦歸道山，校印既竣，言念故人，彌深黃蘗之痛矣！

中華民國二十九年十月

慈谿魏友棊識穹樓

## 1. 〔阿物ル〕 (19, 188)

李媽媽听了，又气又愧便說道，“我不信他这么坏了腸子！別說我吃了一碗牛奶，就是再比这个值錢的，也是應該的。难道待襲人比我还重？难道他不想想怎么長大了？我的血变了奶，吃的長这么大；如今我吃他碗牛奶，他就生气了？我偏吃了，看他怎么着！你們看襲人不知怎么样，那是我手里調理出来的毛丫头，什么阿物兒！”一面說，一面賭气把酪全吃了。又一个丫头笑道：“他們不会說話，怨不得你老人家生气。宝玉还送东西給你老人家去，豈有为这个不自在的？”李媽媽道：“你也不必妝狐媚子哄我，打量上次为茶撒茜雪的事我不知道呢！明兒有了不是，我再来領。說着，賭气去了。

### 1. 〔阿物ル〕

謔言東西，对人之戏称或輕蔑之称。《汉》東西，傢伙。（指人）《小》

如同說“什么東西”，是卑視的口气。《人》

○你这么个阿物ル，也忒行了大運了（ ）

○我也老了，那里养不出那阿物来还怕他不成！（42）

○連我們的也还守規矩呢，你是什么阿物ル，跑来胡鬧（58）

### 2. 〔毛丫头〕

謂小女孩。《汉》

### 3. 〔狐媚子〕

狐媚。謂用柔媚方法以惑人，如“狐媚偏能惑主”，見駱賓王文。《汉》

狐媚蹶倒。做出媚态迷人。《小》

○原来这样，我說那孩子倒不像那狐媚蹶倒的（44）

## 〔訳〕

乳母の李婆やはそれを聞くと、腹立たしいやら恥ずかしいやら、「わしはあのこが そんなはらわたのくさったやつだとは思わなかった。わしが牛乳はおろか、たといこれよりもっとねうちのあるものを食べたとしても、あたり前じゃ。それともなにか襲人の方がわしより大切とでもいうのかい。まさかあのこはどうやって大きくなったかくらい思わぬことはあるまい。わしの血が乳になって、それを飲んでこんなに大きくなったんだぞ。今わしがあのこの牛乳を一ぱい飲んだといって、あのこが怒るとでも思うかい？わしは意地にも飲んでやる。あのこがどんなにするか見てやるんだ！お前らは襲人をどう思っているか知らないが、あいつはわしの手で仕込んだ小娘じゃないか。なんだい、あんなやつ！」そういいながらむかつ腹を立てて、酪をすっかり平らげてしまいました。と一人の腰元がにこにこしながら、「この人たち口が下手なので、お婆さまがお腹を立てなさるのはごもっともです。宝玉さまは常々何かとあなたに物をさしあげていらっしゃるくらいですもの、これくらいのことでご気分を悪くなさることがありますものか？」李婆やは、「お前も猫なで声でわしをたぶらかそうとしてもだまされんぞ。察するところ先にお茶の

ことで茜雪が追い出されたことをわしが知らんとでも思っているな！あとになって不都合ということならわしが責任をとってやるわい。」といいながら、プリプリして立ち去りました。

## 2. 〔嗟声叹气〕（33, 337）

賈政道：“好端端的，你垂头丧气的嗜什么？方才雨村来了，要見你，那半天才出来！既出来了，全無一点慷慨揮洒的談吐，仍是委委瑣瑣的。我看你臉上一团私欲愁悶气色！这会子又嗟声嘆气，你那些还不足，还不自在？無故这样，是什么原故？”宝玉素日虽然口角伶俐，此时一心却为金釧兒感伤，恨不得也身亡命殞，如今見他父親說这些話，究竟不曾听明白了，只是怔怔的站着。

### 1. 〔嗟声叹气〕

嗟。感叹詞，表傷感或痛惜。《汉》

叹气。心有憤鬱以叹息舒其气之謂。《汉》

### 2. 〔委委瑣瑣〕

委瑣。①謂拘於小節。②謂志小行卑。《汉》

### 3. 〔一团私欲愁悶气色〕

人に言えずに自分の心の中でいろいろ思い悩んでいるような顔色。团は量詞。

## 〔訳〕

賈政は、「さしたることもなきに、頭をたれ氣力がなく何のため息ぞ？今しがた雨村が面接したき旨申し入れたるに、かほどの時に漸く顔を見せおる。出てきたかと思うに、さらに悲憤慷慨の氣色も見えず、依然小節に拘泥したるそのさま。わしにはそちの顔に秘めたるはしたなき憂いのあるのが見ゆるぞ。この期に至ってため息吐息とは何事、そちに何の不足、何の不快があると申すか？故なきこのありさま、何としたことじゃ。」宝玉は平素弁舌さわやかな方ですが、一途に金釧ルのことで感傷的になっていて自分も死んでしまいたいという思いで一ぱいでしたので、今父にこういわれてもついぞ耳にはいらず、ただぼんやりと立っていました。

## 3. 〔哀天叫地〕（25, 254）

正没个主意，只見鳳姐手持一把明晃晃的刀，砍進園来，見鷄殺鷄，見犬殺犬，見了人，瞪着眼就要殺人。众人一慌慌了。周瑞家的帶着几个力大的女人，上去抱住，夺了刀，抬回房中。平兒半兒等哭的哀天叫地。

### 1. 〔哀天叫地〕

大声で泣き叫ぶさま。天地は泣く動作が天を仰ぎ地に伏す形をいう。

### 2. 〔見鷄殺鷄見犬殺犬〕

手あたり次第に殺戮を行うこと。

## 〔訳〕

はてどうすればよいかと思っていますと、鳳姐がピカピカ光る刀を手にして園に斬りこみ、鶏犬のみさかいもなく斬りつけます。周瑞の妻がいく人か力持ちの女子衆をつれてきて抱きとめ、刀をとりあげかかえて部屋に運びました。平ルや豊ルたちは大声で泣き叫んでいました。

#### 4. 〔挨餓〕(45, 475)

頼媽媽嘆道：“我那里管他們？由他們去罷！前兒在家里給我磕頭，我没好話，我說：‘小子，別說你是官了，橫行霸道的！你今年活了三十年，虽然是人家的奴才，一落娘胎胞兒，主子的恩典，放你出来，上托着主子的洪福，下托着你老子娘，也是公子哥兒似的，読書写字，也是丫头，老婆，奶子捧鳳凰似的，長了这么大，你那里知道那“奴才”兩字是怎么写？只知道享福，也不知你爺爺和你老子受的那苦惱，熬了兩三輩子，好容易掙出你这个東西，从小兒三灾八难，花的銀子照樣打出你这个銀人兒来了。到二十歲上，又蒙主子的恩典，許你捐了前程在身上。你看那正根正苗，忍飢挨餓的，要多少？你一个奴才秧子，仔細折了福！如今乐了十年，不知怎么弄神弄鬼，求了主子，又选出来了。鼎官虽小，事情却大，作那一处的官，就是那一方的父母，你不安分守己，尽忠报国，孝敬主子，只怕天也不容你！”

##### 1. 〔挨餓〕

受餓。《漢》

##### 2. 〔捧鳳凰似的〕

捧。①兩手承物。②奉承，擁戴。《漢》

兩手で鳳凰を捧げているように。

##### 3. 〔花的銀子照樣打出你这个銀人ル〕

注ぎこんだ金額でその人間と同等の大きさの純銀の人形を作ることができる。

##### 4. 〔正根正苗〕

いい家柄に生を享けたもの。毛並のよい者。

##### 5. 〔忍飢挨餓的〕

ひもじい思いをしたり腹をすかしても食のない者。

##### 6. 〔奴才秧子〕

奴才。旧時婢僕之称。

秧子。凡草木初生可以移栽者皆曰秧。魚苗曰魚秧。《漢》

奴隸の子。惡態語。奴才>奴才秧子。

##### 7. 〔弄神弄鬼〕

弄鬼。猶搗鬼，用詭計。《漢》

神鬼。子曰鬼神之为德其盛矣乎。視之而弗見听之而弗聞体物而不可遺。《中庸》

注云。程子曰鬼神天地之功用而造化之迹也張子曰鬼神者二氣之良能也愚謂以二氣言則鬼者陰之靈也神者陽之靈也以一氣言則至而伸者為神反而屈者為鬼其实一物而已。

人は死ぬと鬼になり又一部は神になる。共に無形，無重，無音のもので神は死後の世界に於ける陽の代表者いいかえれば人間にとっては‘＋’であり，鬼は陰の代表者であり‘－’であるということができる。人間が自己の‘＋’面を期待する祈りの対象は神であり，鬼は常に人間に‘－’面を与える。故に人にかくれてこ

っそり行なわれる不正な行為を表現する修飾語として鬼が用いられるのである。

〔訳〕

頼乳母はため息まじりに、「あのこらがわしの手におえるものですか。勝手にさしておりますわい。先だっても家にいる折わしに挨拶にきたのでわしは甘い話はいたしません。わしは、『こりゃ、お前は非道な無法者の官吏になったということだが、お前は今年で30才、人さまの奴隸と  
はいうものの、生まれ落ちるとすぐから御主君のありがたいお情で気儘にさせてもらった上、上  
はお上のおしあわせにあやかり、下はお前の父母のおかげで、いいところのおぼっちゃま並によ  
みかきを習い、女子衆から婆や、乳母までつけていたゞき、まるで鳳凰でも戴くようにかしずか  
れてこんなに大きくなったんだ。お前にはあの“奴隸”の二字はどう書くかもわからんだろう？  
いい目ばかり知っていて、お前のお爺やおやじさまが受けたあの二代三代じりじりと続いた苦し  
みはわかるまい。やっとお前というものを得たものの、小さい時からあれやこれやと災難つづき、  
それにつかった銀子だけでもお前ぐらいの大ききの銀の人間ができるくらいだ。そして20才にな  
った時に御主君のお思召しでお上のお役を買っていただいたというわけだ。お前、考えてもごら  
んなさい。ちゃんとした家にお生まれの方でもその日その日のおまんまに事欠く人がどれだけい  
ることか？お前のようないやしい奴隸の子はよほど気をつけんと、そのうち罰があたって祿なこ  
とはありませんぞ。それからの楽しい10年、今度又かげでどんな小細工をしたかは存ぜぬが、お  
上をお願いして又御召を受けることになった。県の御役は小さいかもしれぬが事はなかなか大  
きいもの、いずれの土地の御役につくにしろ、そこではお前はその土地の父母も同然、身の程を  
わきまえてお国に忠義、御主君へ御奉公しなければ、天の神様が許しになるまいぞ』といて  
やりました。」といました。

5. 〔挨罵〕（35, 363）

玉釧兒見他这般，也忍不过，起身說道：“躺下去罢！那世里造的孽，这会子現世現報，叫我那一个眼睛瞧的上！”一面說，一面“哧”的一声又笑了，端过湯来，宝玉笑道：“好姐姐，你要生气，只管在这里生罢！見了老太太，太太，可和气着些。若还这样，你就要挨罵了。”玉釧兒道：“吃罢，吃罢！你不用和我甜嘴蜜舌的了，我都知道啊！”說着，催宝玉喝了兩口湯。

1. 〔挨罵〕

謂受罵。《漢》

2. 〔現世現報〕

謂作惡事当世即得惡報。《漢》

現世報（現時報）（現世現報）。旧時一般人迷信因果之說，以為作善作惡，不報於今生，必報於來生。果報見於今生的，叫做“現世報”。《小》



○有曉得的，在背後顛唇簸舌說道“趙瞎子做尽人，那得无此現世报。”（石点头。10）

○当着千人万人面前，一个在台上，一个在台下，丢眉弄眼，穿梭似的来去，这才叫現世报呢！（孽海花。24）

○前日这老道前来求親時，我們只怪他不倫，豈知是个妖魔，今日也現時报了。（拍案惊奇。24）

3. 〔那一个眼睛瞧的上〕

どちらの目で見たらいいというの、どう見ても感心できない。

4. 〔甜嘴蜜舌〕

謂善以甘言对人。《汉》

〔訳〕

玉釧ルはこのありさまにじっとしておれなくなり、たちあがると、「さあ、横におなり遊ばせ。いつの世の因果かは存じませぬが、今このような憂き目におなり遊ばして。私、どちらの目で見たらよろしうございますやら？（まともには見られない）」といいながらクスリと一声笑ってしまいました。スープをもってゆくと宝玉はにっこりして、「お前さんもし腹を立てたいなら、ここでお立てなさい。ご隠居さまや母上に会う時はもう少しにこやかにね。いつまでもそんな顔をしていると叱られちゃうよ。」玉釧ルは、「召し上れ、召し上れ！私にそんなお口の上手なことはおっしゃらなくても結構、私は何もかも存じ上げています！」といいながら宝玉をうながして一口二口スープを飲ませました。

6. 〔挨門ル〕（67, 745）

且説趙姨娘因見宝釵送了賈环些東西，心中甚是喜欢，想道：“怨不得別人都說那宝丫头好，会做人，很大方。如今看起来，果然不錯！他哥哥能帶了多少東西来？他挨門兒送到，并不遺漏一处，也不露出誰薄誰厚。連我們这样没时运的，他都想到了；要是那林丫头，他把我們娘兒們正眼也不瞧，那里还肯送我們東西？”一面想，一面把那些東西翻来复去的摆弄，瞧看一回。

謂逐家。《汉》

〔訳〕

ところでお妾の趙氏は宝釵が賈環に贈物をしたので心中大いによろこび、「人さまがみな、あの宝ちゃんはいいい、ゆきとどいていて鷹揚だというのも、もっともなことだ。今こうしてみようとほんとにその通りだわ。あのこの兄さんがどれ程のものを持ってきてくれるというの、それをあのこったら、一軒一軒配ってあるいて一か所も抜けるどころか、誰に厚く誰に薄いなどということもありません。私達のようなこんな落ち目のものにさえちゃんと考えてくれているわ。もしこれが林のお嬢だったらどうだろう。あのこときたら私たち母子をまともに見ようともしないんだもの、何で私たちにもものなどくれるものですか。」と思いながらそれらの品物を裏むけたり、表向けたりいじくりながらしげしげと見るのでした。

## 7. 〔挨一会是一会〕(77, 863)

周瑞家的等人皆各有事，做这些事，便是不得已了；况且又深恨他们素日大样，如今那里工夫听他的话？因冷笑道：“我劝你去罢，别拉拉扯扯的了！我们还有正经事呢。誰是你一个衣胞里爬出来的？辞他们做什么？你不过挨一会是一会，难道算了不成？依我说，快去罢！”一面说，一面总不住脚，直带着出后角门去。司棋無奈，又不敢再说，只得跟着出来。

### 1. 〔挨一会是一会〕

挨。等待，拖延。《汉》

少しの間引伸ばしたところで、それだけのこと。

○凡有动人动钱的事，得挨的且挨一日（ ）

### 2. 〔誰是你一个衣胞里爬出来的〕

誰方がお前と同じ衣胞の中からはい出して来た人なの？

〔訳〕

周瑞の女房たちにしてみれば皆それぞれ仕事を持っています。こんなことをするのは止むを得ぬからなのです。まして日頃から奥女中たちの大きな態度を憎々しく思っている矢先ですから、どこに彼女の話など聞くとまなどございましょう。せせら笑うように、「さ、もう行った方がいいよ。グズグズしないでさ。わたしたちはまだお仕事があるんだよ。誰かお前と一つおなかから出たものでもいるというのかい？御挨拶をしてもしょうがないだろう。少しばかり時間をのばしたところで、それだけのことさ。もういいとこあきらめたらどうなの。さあ、さっさと行きなよ。」そういいながら一向に足をとめようともせず、まっすぐに後のくぐりからつれて出ました。司棋はどうすることもできず、それにもうこれ以上いう気力もなく、仕方なくくっついて出て行きました。

## 8. 〔矮牆浅屋的〕(83, 941)

母女同至金桂房門口，听見里头正还嚷哭不止。薛姨妈道：“你们是怎么着，又这么家翻宅乱起来？这还像个人家兒嗎？矮牆浅屋的，难道都不怕親戚們听見笑話了嗎？”金桂屋里接声道：“我倒怕人笑話呢！只是这里‘掃帚顛倒豎，——’也没主子，也没奴才，也没大老婆，没小老婆，都是‘混賬世界’了！我们夏家門子里没见过这样規矩，实在受不得你们家这样委屈了！”

### 1. 〔矮牆浅屋的〕

謂居処不寛大，不蔽密，对深宅大院而言。《汉》

### 2. 〔只是这里‘掃帚顛倒豎，——’也没主子，也没奴才，也没大老婆，没小老婆，都是‘混賬世界’了！〕

混賬。hùnzhang。詈人无理无恥之詞。賬亦作帳。《汉》

この家だけは箒が逆さに立ててあって、主人も居なければ召使いも居ない、妻も居ないし妾も居ない。まるで何の秩序もない恥知らずばかりが住んでいる世界だ。

〔訳〕

母と娘が金桂の部屋の入口までゆくと、中で泣きわめく声が聞えてまいります。薛姨媽は「あなた方どうなさったというの。又ぞろこんなに家中取り乱してしまって。これでも人らしい住居といえますか？まるでそこいらのお長屋の衆みたい。親戚の方たちに聞えて 笑いものになって もかまわないじゃありませんまいね。」金桂は中からすぐ言葉をついで、「私の方こそ人さまに笑われるのを心配しているのですよ。ここのうちときたら竹箒を逆にたてたみたい。御主人もいなければ召使いもいない。本妻というものもないし、 といって二号さんがいるじゃなし、全くつかみどころのないところなんですもの。／私たち夏の家ではこのようなしきたりは 見たこともございせんわ。もうとてもお宅のこんな苦しみには耐えられせんわ。／」といいました。

#### 9. 〔矮一等〕（43, 451）

賈母先道：“我出二十兩。”薛姨媽笑道：“我随着老太太，也是二十兩。”邢夫人王夫人笑道：“我們不敢和老太太并肩，自然矮一等，每人十六兩罷了。”尤氏李執也笑道：“我們自然又矮一等，每人十二兩罷。”賈母忙和李執道：“你寡婦失業的，那里还拉你出这个錢，我替你出了罷。”鳳姐忙笑道：“老太太別高兴，且算一算賬再攬事：老太太身上已有兩分呢，这会子又替大嫂子出十二兩，——説着高兴，一会子回想又心疼了！过后兒又説：‘都是为鳳丫頭花了錢。’使个巧法子，哄着我拿出三四倍子来暗里补上，我还做梦呢！”説的众人都笑了。

1. 〔矮一等〕

一階級下。

2. 〔巧法子〕

その場の情況に合ったうまい手段。

3. 〔三四倍子〕

三四倍。

〔訳〕

賈母が先に、「私は20兩出しましょう。」といひますと薛姨媽は笑いながら、「私は大奥様にならってやはり20兩といたしましょう。」と申しました。邢夫人と王夫人はにっこりして、「私たちは大奥様と肩を並べるなんてそんなこと。当然一段下ったところで各人が16兩位でようござんしょう。」尤氏と李執も笑って、「私たちなら当然もう一つ下って12兩ずつですわ。」賈母は急いで李執に、「お前さんは後家の身でみいりのない身。どうしてお前にまでこのおあしを出させるものですか。わしがお前にかわって出してあげよう。」といひますと鳳姐はあわてて、「御隠居様、そんなに御気嫌になられてはいけませんわ。まあ一度勘定をしてからになすってはいかがです。御隠居様はもうお二人分お持ちになっていらっしゃるんですよ。今又大きいお嫂さまの12兩お持ちにな

ったりして——御気嫌でおっしゃっているうちはいいものの、しばらくしたら思い出されて、お心が痛みますわよ／そして一兩日もたったら今度はこうおっしゃるでしょう。『これも皆鳳のやつに散財させられてしまった。』ってね。そしてうまい手を使って私に二、三倍も四倍も出させるようにしむけてこつそり穴埋めなさるんですもの。それを肝心の私が夢でも見ているように何も知らないときてますわ。」といいましたので、皆さんは大笑いなさいました。

## 10. 〔愛巴物ル〕(73, 813)

一时，賈母歇晌，大家散出；都知賈母生气，皆不敢回家，只得在此暂候。尤氏到鳳姐兒处来閑話了一回，因他也不自在，只得園内去閑談。邢夫人在王夫人处坐了一回，也要到園内走走。剛至園門前，只見賈母房內的小丫頭子，名喚傻大姐的，笑嘻嘻走来，手内拿着个花紅柳綠的東西，低头瞧着只管走，不防迎头撞見邢夫人，擡头看見，方才站住。邢夫人因說：“这傻丫头，又得个什么爱巴物兒，这样喜欢？拿来我瞧瞧。”

原来这傻大姐年方十四歲，是新挑上来給賈母这边專做粗活的。因他生的体肥面闊，兩只大脚，做粗活很爽利簡捷，且心性愚頑，一無知識，出言可以發笑。賈母喜欢，便起名为“傻大姐”。若有錯失，也不苛責他。無事时，便入園内来玩耍。正往山石背后掏促織去，忽見一个五彩綉香囊，上面綉的并非花鳥等物，一面却是两个人，赤条条的相抱；一面是几个字。这痴丫头原不認得是春意兒，心下打量：“敢是两个妖精打架？不就是兩個人打架呢？”左右猜解不来，正要拿去給賈母看呢，所以笑嘻嘻走回。忽見邢夫人如此說，便笑道：“太太真个說的巧，真是个爱巴物兒！太太瞧一瞧。”說着，便送过去。

邢夫人接来一看，嚇得連忙死緊攥住，忙問：“你是那里得的？”傻大姐道：“我掏促織兒，在山子石后头揀的。”邢夫人道：“快別告訴人！这不是好東西。連你也要打死呢。因尔素日是个傻丫头，以后再別提了。”这傻大姐听了，反嚇得黃了臉，說：“再不敢了！”磕了头，呆呆而去。

### 1. 〔愛巴物ル〕

心愛之物。《漢》

同‘愛八哥ル’，可愛的東西，有時用作反話，意思是‘討厭的傢伙’《小》

○我和他井水不犯河水，怎么就冲了他？好个爱八哥ル，在外头什么人不見，偏来了就冲了。(69)

### 2. 〔赤条条的〕

一无牽挂之謂。《漢》

精光。《小》

○把銷金帳子下了，脱得赤条条地，跳上牀去坐了。(水滸。5)

○刘知遠輸了三十貫錢，身畔赤条条地，正如烏鴉中彈，游魚失波。(五代史平話)

### 3. 〔两个妖精打架〕

妖精：俗謂物之化成精怪者。《漢》

人間以外の動物植物鉱物等が数百年以上の修業の結果、神通力を見えるにいたったもの。通常その所属する名称を修飾語にして‘精’をつける。例：狗精，鹿精等。見済公伝。

4. 〔死緊攥住〕

しっかり握りしめて放さぬこと。

5. 〔呆呆而去〕

呆氣にとられて立ち去った。

〔訳〕

しばらくして賈母は午睡をとりましたので、皆はそれぞれ引取りましたが、誰も皆賈母が御気嫌を悪くしているのを知っていましたから、家には帰らずにここでしばらく待つことにいたしました。尤氏は鳳姐のところでもちょっと世間話をしましたが、彼女も不愉快そうなようすなので園に行っておしゃべりをしました。邢夫人は王夫人のところで一休みしてやはり園の方に出かけました。園の入口まで来たと思うと、賈母の部屋的女中で傻大姐（まぬけなむすめの意）と呼ばれているのが、いかにもうれしそうなようすでやってまいります。見れば手に紅や緑に彩られた美しいものを持ってうつむきかげんにそれを見ながら歩いてきます。出しぬけに邢夫人にぶつかり、顔をあげやっととまりました。邢夫人はそこで、「このまぬけったら。又何をそんなにいいものを見つけたっていうの。大そうよろこんで。見せてごらん私に。」といいました。もともとこの傻大姐は14歳になったばかりで、今度新たに賈母のところで下働きをさせるために連れてこられたものです。彼女は生まれつき大柄で大きな顔をしていて、二つの大きな足であら仕事を大変テキパキと手際よくいたします。それに性根は愚直で、知識は何もありませんが、ものをいわすとあたりに笑いをふりまきます。賈母はそれをよろこばれて『傻大姐』と名づけてやりました。そんなわけで、何か粗忽があってもひどく彼女を責めるようなことはいたしません。用事がなければ園にきて遊んでいました。丁度築山のうしろにこおろぎをつかまえに行った時、ふと極彩色の匂袋を見つけました。袋の上のぬいとりは花鳥などというものではなく、片側は人が二人全裸の姿で抱きあった図です。片側にはいくつか字がありました。この頭のうすい女の子はそれが春画であるなどとはもともと知りません。心の中で、『きっとこれは二匹の妖精がけんかしているか、でなければ二人の人間が争っているのにちがいないと思い、とつおいつ思案いたしました但しわかりません。そこで持って行って賈母に見せようとして、あんなにうれしそうにして帰るところだったのです。突然邢夫人にこういわれましたので笑いながら、「奥様、その通りですよ。すごくいいものですの／＼どうぞごらん下さい。」といいながら渡しました。

邢夫人は受取って一目見るや、びっくりして慌ててしっかり手につかむとせきこんで、「お前はどこでこれを？」傻大姐は、「私がこおろぎをとっている時、築山のうしろで拾いました。」邢夫人

は「絶対誰にもいったらいけないよ。これはいいものじゃありません。お前までひどい目にあいますよ。ふだんからお前はまぬけな子だけど、今後金輪際いうんじゃないよ。」といいました。優大姐はそういわれて逆にびっくりしてまっさおになり、「もう二度といたしません。」と頭をぶつけてお辞儀をすると狐につままれたようなさまで立ち去りました。